

同志社の「尖り」が時代を拓く

吉岡 恵生

講師紹介〔よしおか・やすたか〕

日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師

Ⅰ. 「隣人愛」の実践を追い求めて

日本キリスト教団高槻日吉台教会で牧師をしています吉岡と申します。私は2004年同志社大学神学部に入學をし、2010年には同志社大学大学院神学研究科博士課程前期を修了して牧師になりました。東京で5年、アメリカで5年牧師をして、2020年から現在の高槻日吉台教会で牧師をしています。

また、2021年から同志社女子中学校・高等学校で聖書科の授業を担当する嘱託講師としても働かせていただき、2022年には牧師である友人と共に株式会社グレープヴァインという会社を立ち上げて、キリスト教の精神を土台とする様々な事業を展開しています。

この会社の事業の一つとして、京都の二条でホテルエクレスシアという、シングルマザーシェアハウスを併設する社会貢献型ホテルの運営をしています。「エクレスシア」とは、ギリシャ語で「教会」を意味する言葉です。このホテルが、単なる営利目的のホテルではなく、牧師が運営するホテルということで、教会のように愛を分かち合う場となればと願って、この名前にしました。京都では、オーバーツーリズムがしばしば問題となり、「観光公害」と呼ばれる現状があるわけですが、多くの人々が世界中からやって来るということを、より良い機会として活かすことはできないかという思いから、このホテルの運営を始めました。

このホテルの目的を果たすために、一般社団法人みをつくしという団体も設立し、私はそこで理事の一人としての働きも担っているのですが、この一般社団法人では、主にシングルマザーシェアハウスの運営をしています。実際に、現在3世帯のシングルマザーご家族が、ホテルと同じ建屋に住んでおられます。会社ではホテルを運営し、一般社団法人ではシングルマザーシェアハウスを運営し、この両者が両輪となって、この事業は成り立っています。

宿泊費の一部がシングルマザーシェアハウスの運営のために自動的に寄付される仕組みとなっているため、ホテルに宿泊される方々は、宿泊を通して社会貢献をすることができるといことになります。実際のお金の流れとしては、会社がホテルの収益として宿泊費を徴収し、その一部を一般社団法人に寄付することで、宿泊者皆で、社会的孤立や経済的課題のあるシングルマザー家族を支援することができるという仕組みになっています。これは、私自身にとって、キリスト教の精神の土台にある「隣人愛」の精神の実践であり、こうした取り組みが少しでも社会に広がっていけばと願って活動をしています。

2. 同志社の徽章に見る「尖り」についての持論的考察

ここで、今日のメインタイトルにもなっています「同志社の『尖り』」というものについて、皆さんと考えていきたいと思います。同志社大学のホームページによりますと、同志社の徽章（きしょう）は「国」や「土」を意味するアッシリア文字を図案化したものだそうです。また、「知・徳・体」の三位一体、あるいは調和を目指す同志社の教育理念、これが、同志社の徽章に込められた意味であるそうです。逆三角形が3つ繋がっているだけという、とてもシンプルなデザインですが、このシンプルなデザインの中には、先ほどご紹介したように、実は多様な意味が込められているのです。

同志社の教育理念について語る中で、「自由・自治・独立」という言葉が掲げられることがあります。この「自由」という一言を考えても、一人一人が自由に生きるならば、そこには多様な生き方が生まれて来ることになるわけです。ですから、一人一人の自由を尊重して生きるということは、自ずと、多様な生き方を一つの社会の中で認め合っていくということに繋がります。そういう意味では、同志社とは同じ志を持つ者たちの結社と書きますが、そこに生きる人々には、多様な生き方があっていいのです。先ほど、同志社の徽章には多様な意味が込められていると言いましたが、そのこと自体が既に、一人一人の自由な生き方、多様な生き方を認めていこうとする、同志社の気風を表していると言えるのではないかと私は考えています。

そこで、この同志社の徽章についてもう少し自由なイメージを膨らませていきたいと思うのですが、これはあくまでも、自由奔放な「持論的考察」であることをお許しください。この同志社の徽章は逆三角形が3つ結ばれているわけですが、私にはこれが、矢印のように見えるのです。三角形が3つですから、ここには9つの頂点があり、9つの方向に矢印が広がっている。9つの尖りがある。そんな風にも見えないでしょうか。

ここで、あまり好き勝手に、根拠のない持論的考察を展開し続けても説得力がないと思いますので、牧師として、少し聖書的な視点からこの話を展開していきたいと思います。聖書には数字がたくさん出て来るのですが、その数字は多くの場合、何らかのメッセージを携えたシンボルとして使われています。例えばイエス・キリストが十字架にかかって死んだ後、3日目に復活をしたということが聖書に書かれています。このことから、3という数字は、「人間を超越した神の御業や栄光」を表す数字だと言われるのです。キリスト教の神は「父・子・聖霊」からなる三位一体の神だと言われるのですが、ここにも3という数字が持つ秘められた意味があるわけです。そう考えますと、9という数字は3の二乗ですから、ある意味では最強な数字の一つとなります。神の御業を示す3が二つも掛け合わされているわけですね。このことから、9は「神が起こされる奇跡」を表す数字だと言われることがあります。一方、完全なる神を10で表すことがあり、その時には9という数字が、完全な神から1を引いた不完全な存在として、「完全な神には及ばない人間」を表す数字だと理解されることもあります。つまり、9という数字には、「人間を超越した神の力」と、「不完全な人間」という両面の意味が込めら

れているということです。

実に強引な意味づけであることは承知していますが、私はこれらのことから、同志社の徽章に見る9つの尖りには、私たちの欠けを補ってくださる神の奇跡を信じて、勇気ある一步を踏み出していく、そのような人々の姿が映し出されているように感じています。これは、同志社の教育理念を語る際にもよく登場する「倜儻不羈（てきとうふき）」という言葉にも重なり合うことではないでしょうか。

3. 校祖新島襄の言葉が示す「尖り」についての持論的考察

新島襄は次のような言葉を遺したと伝えられています。「わが校の門をくぐりたる者は、政治家になるもよし、宗教家になるもよし、実業家になるもよし、教育家になるもよし、文学者になるもよし、且つ少々角あるも可、奇骨あるも可、ただかの優柔不断にして安逸を貪り、苟くも姑息の計をなすがごとき軟骨漢には決してならぬこと、これ予の切に望み、ひとえに希うところなり」。

新島は、この言葉を通して単に「職業選択の自由」を伝えなかったのでしょうか。世の中には色々な職業がありますが、その多様な職業の中から各自が自由に一つの職業を選ぶことは、現代においては何も特別なことではなく、当たり前のことであると言えるでしょう。もちろん、当時はその自由がそもそもなかった時代であるということも言えますが、そうであるならば、新島の言葉はもはや時代遅れの言葉ということになるのでしょうか。私はそうは思いません。新島は「少々角あるも可、奇骨あるも可」と語りました。その言葉は時代を貫き、現代にも響き渡る言葉であると思います。この「角」、また「奇骨」こそ、同志社の徽章に表現された同志社的「尖り」であり、「普通」の枠には収まらない多様な生き方を指し示しているように思うのです。つまり、この新島の言葉は単なる「職業選択の自由」を語る言葉ではなく、一度社会に出てからも、多様なプロフェッショナルを同時的、複合的に担っていくような、マルチタスクな人物の排出を願う言葉だったのではないかと思います。

当時の宣教師の多くは、牧師であり、医者であり、教師であり、建築家でもあったようです。決して一つの枠組に収まらず、様々なプロフェッショナルな領域を同時に担いながら、社会のために活躍していった人々が多くいます。そうした人々を近くに見てきたことは、新島の教育観を始め、学生たちに示す将来ヴィジョンにも、少なからず影響を与えていたと考えられます。

皆さんは今、これから自分の将来をどうしていこうかと考えておられることと思いますが、皆さんの将来には本当に多くの可能性があると思います。同志社人としてぜひ忘れずにいてほしいことは、現在の社会にある枠組みに決して捕らわれることなく、時代の変化や人々との出会いの中で、自分自身が持つあらゆる可能性に、いつも視野を広く向き合う一人でありたいということだと思います。

皆さんが将来、ある一つの職業に就いたとしましょう。その職業には必ず、伝統的な枠組みがあると思います。この職業はこういうことをする人だ。この職業ではこれはしない。そういう決まりきった枠組みというものがあるのです。しかし、必ずしもその枠組みに収まる必要はないと思います。社会のために、より良いことをしていくためには、それまでの常識には捕らわれない働き方というものが必要になることもあります。その、新しい一步を踏み出す先頭に立っていけるのが、同志社「尖り」を持つ同志社人であると思っています。

4. 同志社人としての私の挑戦―牧師として、教師として、経営者として

ここで、改めて私自身のお話をさせていただきます。先ほどもお話したように、私の日常には、教会での牧師の働きに加えて、学校教師としての働きや、会社経営者としての働きが与えられています。

教会で働く牧師は教会でのみ働くというのが、これまでの伝統であったと思います。しかし、宗教界全体の衰退という時代的傾向もあり、現在の教会を取り巻く環境というものはとても厳しいものになっています。これまでのように、ただ教会で人を待っているだけでは、教会が伝えようとしている大切な事柄が伝わっていかないという課題が、現実のものとして存在しています。そうした中、私は教会の働きを大切にしながらも、その枠組みに捕らわれない活動をしているわけですが、このような新しい働き方を始め、伝統の枠組みからはみ出していくということは、決して容易なことではありません。「あの人は牧師なのになぜ他の仕事をしているんだ」と言われることもしばしばあります。逆風はつきものです。しかし、そのような逆風に怯えている場合ではありません。「出る杭は打たれる」という言葉がありますが、「出過ぎた杭は打たれない」という言葉もあつたりします。そんな言葉にも励まされつつ、私は自分にできることを、精一杯に果たしていきたいという思いを持って、現在の働きを担っています。

教会で牧師をしながら、学校や会社でも働くこと、こうした働き方は一般的に「副業」という言葉で表現されると思いますが、私はこれを「副業」とは考えていません。似たような表現として、オーストリアの経営学者ピーター・ドラッカーが提唱した「パラレルキャリア」という言葉や「複業」という言葉も思いつきますが、これも違います。私にとってはどれも牧師としての「本業」であり、牧師がなすべきことであり、牧師だからこそできることであり、キリスト教の精神において最も大切であるとされる「隣人愛」に根差した、同じ目的に向かう働きなのです。

改めて、同志社の徽章を眺めてみると、そのベクトルは多様な方向へと向けられているのと同時に、中央の一点においてしっかりと結ばれていることにも気づかされます。私の働きもまた、多様な働きをしているようでいて、キリスト教の精神に根差した「隣人愛」の実践という一点において結ばれているのです。牧師として、教師として、経営者として、働き場は違っても、私はただ愛のための働きを果たしたいと願って日々活動をしています。この一点の志を

中心に据える時、私はあらゆる伝統的枠組みからはみ出して行く勇気さえ与えられるのです。

私にとってこの挑戦は、先に紹介した新島の言葉に突き動かされる、同志社人としての挑戦でもあります。イノベーションという言葉は既に使い古された言葉のように思いますが、それでもなお現代はイノベーションの時代だと思っています。社会にある様々な課題を克服するためには、新たな価値観やアイデアが次々に生み出されて行く必要があります。その時代を牽引し、道なき道を拓いて行くために、私たち同志社人は、同志社的「尖り」により磨きをかけていきたいと思うのです。

5. さあ、多様なベクトル作りを始めよう

聖書には次のような言葉があります。「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。」（ローマの信徒への手紙 8章 28 節）。私はこの言葉が真実であることを何度も体験してきました。

神は私たちの欠けを補い、私たちの人生に奇跡さえ起こしてくださるのです。すべての経験は、自分自身の将来に益となるように繋がっていくのです。無駄なことだと思うことさえ、不思議と将来に活かされていくものです。私自身のことで言えば、学生時代には当初、教員免許を取ろうとは思っていませんでした。しかし、「いつか何かの役に立つかもしれない」という先輩の助言を受けて、教員免許も取ることにしました。結果として、今、教会の牧師として働きながら、学校でも同じ目的に根ざして働く機会が与えられたのです。牧師の友人と一緒に起業をしたこともそうです。この友との出会いがなかったら、少なくとも起業することはなかったと思います。人との出会いも、あらゆる出来事も、すべては将来の自分自身が持つ可能性を広げてくれる、大変有意義なものとなるのです。そのことを信じて今を生きるということを、ぜひ大切にしていきたいと思います。

学生時代を生きる皆さんには、どんなことにもチャレンジをしてほしい。たくさんの人々との出会いを大切にしてほしい。視野を広く、あらゆる方向に目を注ぎ、多様なベクトルを持つ一人になってほしい。しかしその土台には、いつも変わらぬ一つの志を抱いてほしいと思います。私の場合は、「隣人愛」の実践という一つの志があるわけです。どんな働きの土台にも、この一点の思いが揺らぐことなくあるのです。このように、揺らぐことのない一つの志を追い求めながら、その志に根差したあらゆる生き方、働き方を探し求めていくこと。それが、同志社的「尖り」を持つ同志社人の生き方であり、このように生きる人々が、新たな時代を切り拓いていけるのだと私は信じています。皆さんの日々の歩みの上に、神様の導きと祝福が豊かにありますようにとお祈りをしています。

2024年6月 13 日 同志社スピリット・ウィーク春学期

京田辺校地 「講演」記録